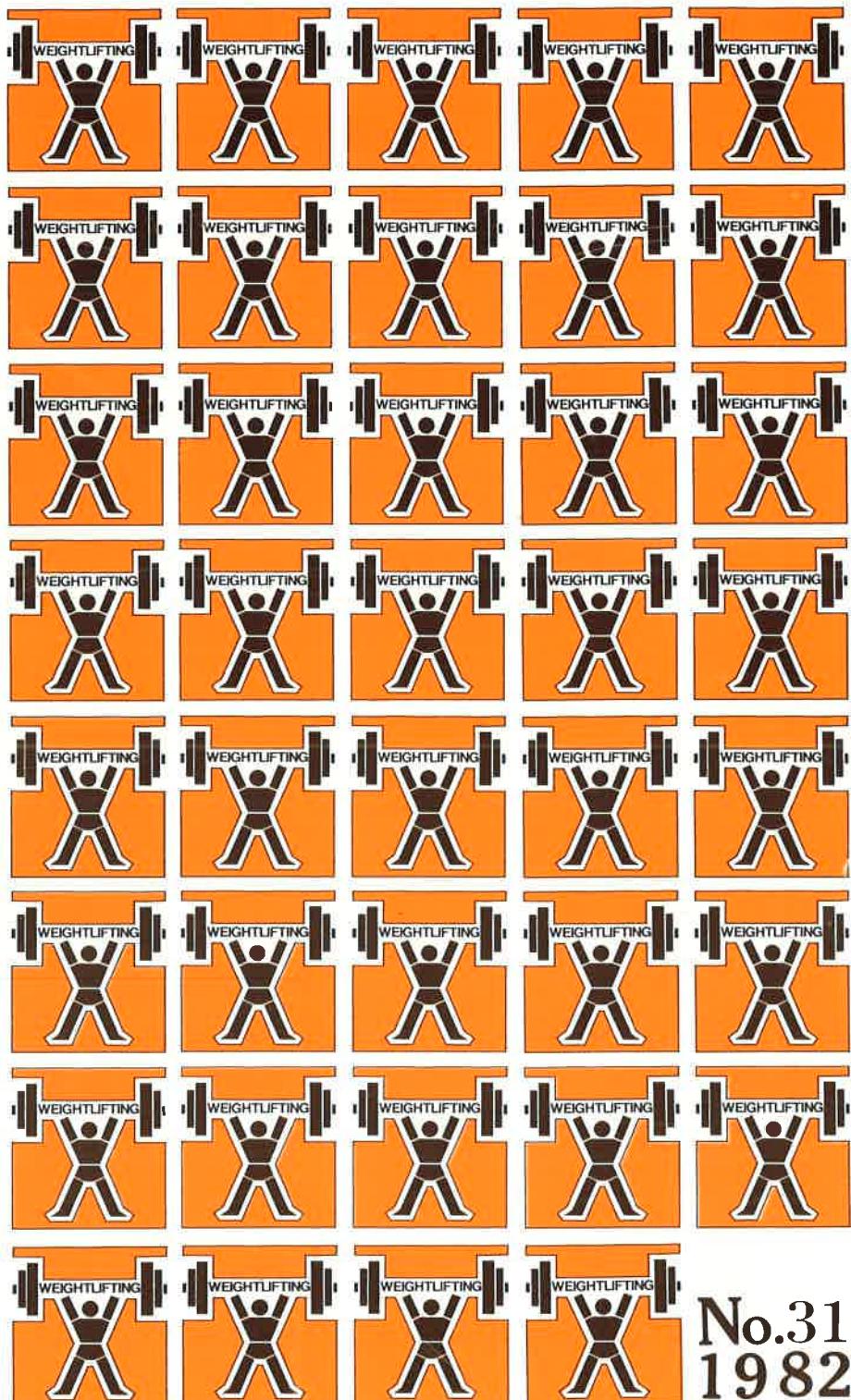


Weightlifting

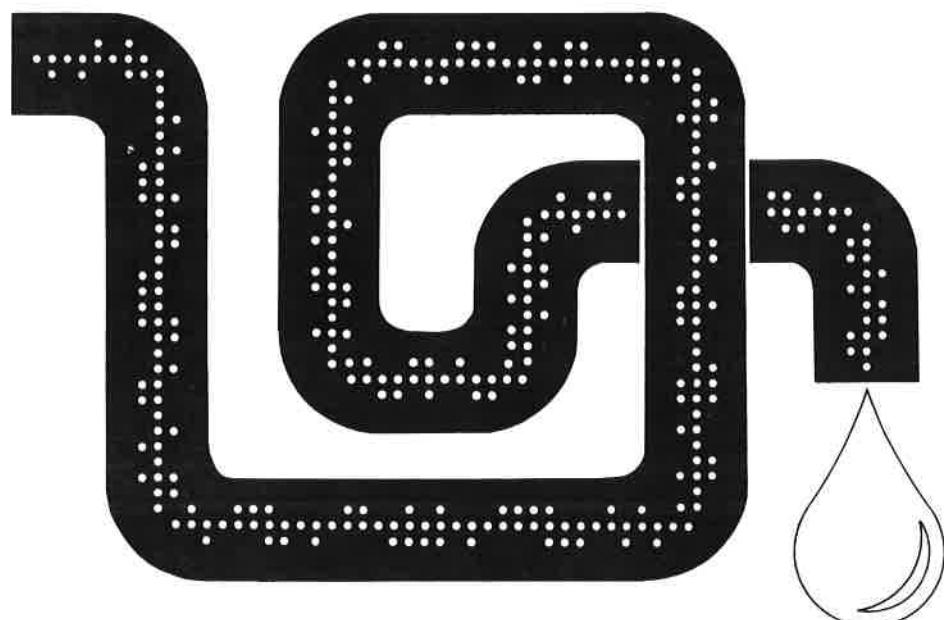


Japan Weightlifting Association



No.31
1982

水処理プロセスを 総合的に管理します。



都市の近代化と生活水準の向上に伴ない上下水道の需要は増大し、水処理設備の整備は愈々時代の要請となりつつあります。高岳の集中監視制御システム((MUDIC))は大規模化、複雑化する水処理の流れを容易にコントロールすることを目的に、永年に亘る経験と最新のシステム技術を組合せて設計されたものです。端末部にはマイクロコンピュータによる制御装置を設置し、個別制御機能の高度化と転送機能の強化を図ると共に、中央監視室にはミニコンピュータまたはマイクロコンピュータを中心として、グラフィックパネル、CRT、コントロールデスクなどを有機的に結合したマンマシンインターフェースを配置。オペレーターが居ながらにして全プロセスの合理的な総括管理、制御ができるようになっております。

また、MUDICは、柔軟性に富んでおり、プロセスの規模・ニーズに的確に対応できると共に、将来のシステム拡大や設備の拡張にも対応可能なビルディング・ブロック方式を採用しております。

高岳の集中監視制御システム(MUDIC)は各種受変電設備と共に、水資源の有効利用と環境整備に貢献し得るものと考えます。



受変電設備、水処理その他の環境設備



21世紀の電機システムを考える

高岳製作所

本社／〒100 東京都千代田区大手町2-2-1
(新大手町ビル) ☎(03)211-1671 代表

タカ オカ
高岳

マイクロプロセッサ採用の集中監視制御システム
上水道 下水道 水処理用電気設備

全 大 学 発 展 課 国 旗

第 1 回 全 国 高 校 旗 旗 競 技 大 会

目 次

1. ソ連国際友好杯大会	2
2. ブルースワード国際大会	11
3. 第28回全日本学生選手権大会個人戦	17
4. 第17回日韓親善大会	19
5. 第7回日中友好大会	23
6. パンノニア国際大会	28
7. JOC杯第3回全日本ジュニア選手権大会 兼第8回ジュニア世界選手権大会選考会	33
8. 第10回東日本学生ウエイトリフティング選手権大会	35
9. 第42回全日本選手権大会 兼オリンピッククロスアンゼルス大会第一次候補選手選考会	39
10. 第29回全国高校ウエイトリフティング競技選手権大会	47

ソ連国際友好杯大会

(昭和57年3月3日~7日、ソ連・キリギス共和国フルンゼ市)

報告者 菊地俊美

1. 選手団及び大会の概要

(1) 選手団 役員 菊地俊美(競技力向上委員)

役員 細谷治朗(競技力向上委員)

選手 小高正宏(日体大4年生)

選手 城間忠誠(法政大4年生)

選手 宮城正章(日体大4年生)

(2) 大会期間 昭和57年3月3日~7日

(3) 場所 ソ連 キリギス共和国フルンゼ市

(4) 参加国 15カ国(128名)

5. 日本選手の競技結果

○56Kg級 小高正宏

S. 110Kg J. 137.5Kg T. 247.5Kg(5位)

○60Kg級 城間忠誠

S. 115Kg J. 150Kg T. 265Kg(5位)

○82.5Kg級 宮城政章

S. 135Kg J. 170Kg T. 305Kg(6位)

2. 総括

1982年のソ連国際友好杯大会は、3月3日から7日までキリギス共和国の主都フルンゼ市で盛大に開催された。我が国からは56Kg級の小高、60Kg級の城間、82.5Kg級の宮城と3選手が参加した。3選手とも大学生ながら56年度の全日本ランキング第1位であり、将来を嘱望されているホープである。

〔52Kg級〕 オリンピックを含めた世界選手権4連勝中のオスモナリエフ(ソ連)に世界新記録更新の期待がかかったが、スナッチの第3試技(110Kg)で肘を痛め途中棄権した。替わって同じソ連のボグトスキーが247.5Kgで優勝し、ソ連は軽量級でも層の厚いところを見せた。

〔56Kg級〕 この階級はソ連のミルゾーヤンの1人舞台で、ジャークで158.5Kgの世界新記録に挑戦する意欲を見せたが成功せず、結局267.5Kgで終った。日本の小高選手はスナッチ、ジャークとも1本づつの成功でトータル247.5Kgと不本意な成績で終った。

〔60Kg級〕 ソ連のサルキッシャンとブルガリアのレシェーボフの争いとなり、2種目に安定した強みを発揮したレシェーボフがトータル295Kgの好記録で優勝した。

またレシェーボフはジャークの特別試技で170.5Kgの世界新記録を樹立した。日本の城間選手はジャーク150Kg、トータル265Kgと自己最高記録をマークし、海外試合に強いところを見せた。今

後の活躍が大いに期待される選手の1人である。

〔67.5Kg級〕 人材豊富なソ連重量挙界でも、この階級については1976年のモントリオールオリンピックを制覇したコロル以来世界チャンピオンは出ておらず不作が続いている。

今回はアプセトフが327.5Kgで優勝したが、現チャンピオンのクンツ（東独）を破るにはまだまだ力不足の感は否めない。他の階級は多勢の自国選手が参加している中で、この階級だけはアプセトフ1人というのも不思議である。

〔75Kg級〕 ソ連勢が上位6位まで占めた中で、ミカレフがスナッチ160Kg、ジャーク197.5Kgと安定した力を発揮して優勝した。外国勢の中では67.5Kg級から上がったブルガリアのパッシュヨフに期待が集まつたが、トータル335Kgと、昨年とさして変わらない記録で終り関係者をガッカリさせた。

〔82.5Kg〕 第1人者のバルダニアンは出場しなかつたが、75Kg級から上がったペルビー（ソ連）が力強い試技を展開し、他を全く問題とせず4回の試技でトータル392.5Kgの好記録で優勝した。不世出の名選手バルダニアンの持つジャーク233Kgの世界記録を2回目にあっさり更新するなど、その実力は計り知れないものがある。間違いなく次代を背負う逸材である。

日本の宮城選手は調整不足からか、トータル305Kgと彼本来の実力を出しきれず不満足な成績で終ってしまった。

〔90Kg級〕 大会前の予想ではスナッチ、ジャーク、トータルと3部門の世界記録を持っているサイドラエフ（ソ連）の楽勝かと思われたが、6試技中1回も成功せず、好不調の波が大きい一発屋の一面をのぞかせた。優勝はソロドフ（ソ連）で、記録は382.5Kgと平凡であったが、まだ20歳と若く今後強くなる選手の1人と思われる。

〔100Kg級〕 3部門の世界記録保持者新鋭ザハリエビッチと、昨年の世界チャンピオンソツツの一騎打ちと思われたが、結果はザハリエビッチの自滅でソツツの一人舞台で終った。

ソツツはスナッチで193Kg、ジャークで233Kgと世界記録を塗りかえ、第1人者としての貫録を示した試技ぶりであったが、圧感はジャークで、スプリットせずブッシュで世界新記録を作ったのには驚かされた。足腰の強さに加えて上体と下体のバランスが特に素晴らしい、全ての面でウエイトリフターとしての理想を見る思いがした。

〔110Kg級〕 昨年の世界選手権第2位のクロコフと、ベテランのクズニチェンコの激突となつたが、ジャークに一日の長さがあるクズニチェンコに勝利の女神が微笑んだ。記録的にはあと一步の感があるが、観る者を威圧するに十分な風貌と、持前のダイナミックなリフティングぶりは迫力満点であった。

〔+110Kg級〕 優勝はジャーク258Kg、トータル455Kgの世界新記録を樹立した昨年の世界チャンピオンアナトリー・ピサレンコ（ソ連）であった。

スーパーへビー級で一世代を築いたアレクセーエフの引退後、次々とチャンピオンが交替していくなかで、長期にわたる制覇が可能なのはこのピサレンコであろう。歴代のチャンピオンが体重150Kg前後の巨体であつてこのに対し、彼は120Kg台と少ないが見事に均整がとれており、相対筋力から

考へてスナッチ 210Kg, ジャーク 270Kg台は時間の問題であろう。無限の可能性を秘めた新タイプのヒーローが登場した。

トピックス



写真はタラネンコ(モスクワオリンピック110Kg級チャンピオン)のアップとそれをみつめるコーチの1コマです。このコーチは技術者とのことで、流石に技術者らしく御覧のような幅や高さが自由に調整できるスタンド型の大型定規風の物を持ち出し、1回ごとにコースや高さをチェックしていた。バーの軌跡を人間のカンに頼らず、科学的側面から捉えようとする技術者の思想が表われている。

「競技の運営上も何時も、選手の安全第一主義を第一に心がけ、競技の運営上も何時も、選手の安全第一主義を第一に心がけ、

ソ連国際友好杯大会

(昭和57年3月3日~7日、ソ連・キリギス共和国フルンゼ市)

☆印は、世界記録

52kg級

順位	氏名	生年	国名	体重	S	J	トータル
1	BOGUTSKY VALERI	1960	URS	51.7	107.5	135	242.5
2	IM JONG GWAN	1955	PRK	51.3	95	135	230
3	GUTOWSKI JACEK	1960	POL	51.8	105	125	230
4	HERNANDEZ JUAN	1956	CUB	51.4	102.5	125	227.5
5	KIM YONG SU	1961	PRK	51.8	90	120	210

56kg級

1	MIRZOYAN OXEN	1961	URS	55.85	120	147.5	267.5
2	MAVIUS FRANK	1956	GDR	55.55	117.5	142.5	260
3	GOLIK TADEUSZ	1952	POL	55.6	115	137.5	252.5
4	HO BONG GHOL	1962	PRK	55.65	110	140	250
5	KOTAKA MASAHIRO	1960	JPN	55.8	110	137.5	247.5
6	COCIORAN VASILIO	1960	ROM	55.85	105	130	235
7	ARAPBAEV ISRAIL	1961	URS	55.75	97.5	125	222.5

60kg級

1	REDZHEBOV REDZHEB	1960	BUL	60	130	165	295
2	SARKISYAN YURI	1961	URS	60	125	160	285
3	ZAJDEL STANISHAW	1955	POL	59.8	122	145	267.5
4	LI HI PONG	1963	PRK	59.75	115	150	265
5	SIROMA TIUSEI	1960	JPN	59.95	115	150	265

REDZHEBOV REDZHEB

特別試技 ☆ ジャーク 170.5

67.5kg級

1	AVSETOV AVSET	1956	URS	67.5	147.5	180	327.5
2	KLINKFRIT JURGEN	1963	GDR	67.35	132.5	160	292.5
3	CHIEBOSZ MIROSLAW	1961	POL	67.15	130	155	285
4	TULI MIRCEA	1957	ROM	64.5	120	155	275

順位	氏名	生年	国名	体重	S	J	トータル
5	CASSIAU DANIEL	1961	FRA	67.4	120.	147.5	267.5
6	CHOIJAMS KURULVATOR	1964	MON	67.5	120.	142.5	262.5

75kg級

1	MIKHALEV VLADIMIR	1958	URS	74.75	160.	197.5	357.5
2	PASHOV MINCHO	1961	BUL	73.	145.	192.5	335.
3	ECHENIQUE JULIO	1959	CUB	75.55	142.5	180.	322.5
4	CHOROSLAN DRAGOMIR	1954	ROM	74.8	137.5	177.5	322.5
5	KULISZ EDWARD	1955	POL	73.3	137.5	167.5	305.0
6	PAK VON SYN	1961	PRK	73.5	132.5	160.	292.5
7	STUDNICKA LUBOS	1963	TCH	74.25	132.5	157.5	290.
8	TORIKKA JARI	1961	SWE	74.1	125.	157.5	282.5

82.5kg級

1	PERVI ALCXAMDER	1960	URS	82.	170.	222.5	392.5
2	RACHEV MARKO	1958	BUL	80.8	157.5	190.	347.5
3	BLASZE DETLEF	1955	GDR	82.05	150.	190.	340.
4	SOLLEVI BER	1956	SWE	81.6	140.	180.	320.
5	HARAGOS ATTILA	1960	HUN	80.7	140.	175.	315.
6	MIYAGI HASAAKI	1959	JPN	82.35	135.	170.	305.

PERVI ALEXAMDEX

☆ ジャーク 223.5

90kg級

1	SOLODOV VIKTOR	1962	URS	89.45	170.	212.5	382.5
2	ANGELOR IVAN	1961	BUL	89.6	170.	210.	380.
3	MOLLER PETER	1961	GDR	85.9	150.	195.	345.
4	RABCZEWSKI PAWEI	1949	POL	86.	155.	190.	345.
5	BARTON LADISLAV	1962	TCH	89.85	150.	192.5	342.5
6	SANDORI ISTVAN	1959	HUN	89.7	145.	190.	335.
7	GONZALEZ RENE	1960	CUB	89.8	140.	192.5	332.5
8	NILSSON KLAUS GORAN	1958	SWE	86.	145.	182.5	327.5

100kg級

順位	氏名	生年	国名	体重	S	J	トータル
1	SOTS VIKTOR	1958.	URS	97.7	187.5	225.	412.5
2	GERE GEZN	1958	URS	100.	165.	200.	365.
3	SODERHOLM TOM	1953	SWE	98.6	162.5	197.5	360.
4	WESTPHAL WERNER	1955	GDR	91.95	155.	195.	350.
5	KORPAR ZDENKO	1961	YUG	93.75	145.	160.	305.

SOTS VIKTOR

☆ スナッキ 193

☆ ジャーク 233

110kg級

1	KUZNICHENKO VALERI	1953	URS	109.55	185.	230.	415.
2	CARLTON GUY	1954	USA	105.85	162.5	210.	372.5
3	GREGOR VLADIMIR	1961	TCH	107.2	160.	207.5	367.5
4	BRIZUELA GILLERMO	1961	CUB	102.75	162.5	202.5	365.
5	OLT RONALD	1960	GDR	100.4	160.	192.5	352.5
6	MOLNAR MIKLOS	1961	HUN	101.75	157.5	190.	347.5

+110kg級

1	PISARENKO ANATOLI	1958	URS	123.5	197.5	257.5	455.
2	MENUEZ FRANCISCO	1960	CUB	133.3	167.5	212.5	380.
3	SKOLIMOWSKY ROBERT	1956	POL	151.	165.	200.	365.
4	SINKOVICS FERENC	1958	HUN	110.4	157.5	190.	347.5

PISARENKO ANATOLI

☆ ジャーク 258

☆ トータル 455

表彰式



52kg級

- 1位 BOGUTSKY VALERI (ソ連)
- 2位 IM JONG GWAN (北朝鮮)
- 3位 GUTOWSKI JACEK (ポーランド)



56kg級

- 1位 MIRZOYAN OXEN (ソ連)
- 2位 MAVIUS FRANK (東独)
- 3位 GOLIK TADEUSZ (ポーランド)



← 60kg級

- 1位 REDZHEBOV REDZHEB (ブルガリア)
- 2位 SARKISYAN YURI (ソ連)
- 3位 ZAIDEL STANISLAW (ポーランド)



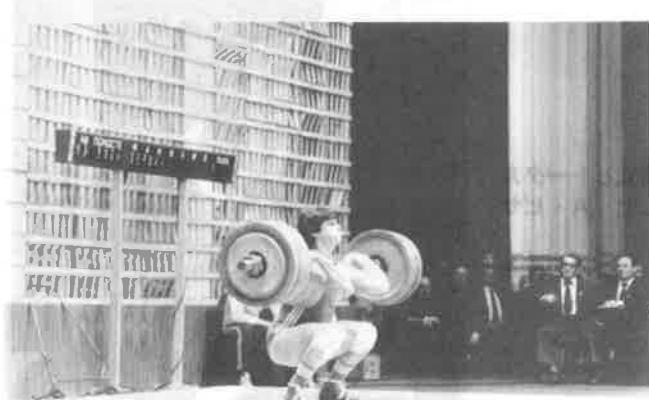
67.5kg級

1位 A·AVSETOV (ソ連)
ジャーク 180kg



75kg級

1位 MIKHALEV VLADIMIR (ソ連)



82.5kg級

ジャークで223.5kgの世界新記録を樹立し
優勝した A.RERVI (ソ連)



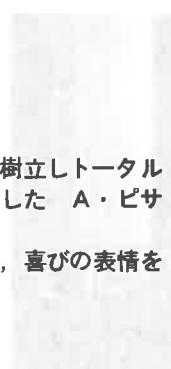
← 90kg級
1位 SOLODOV VIKTOR (ソ連)



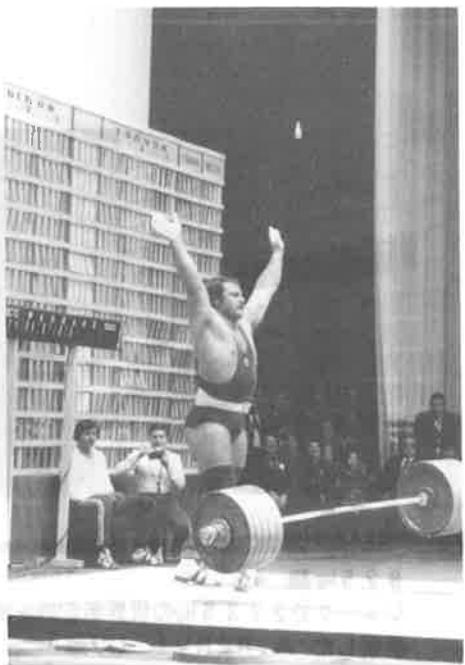
100kg級 →
S. 193kg J. 223kg と2つの世界新記録を樹立し、3部門の世界記録を独占していた宿敵ザ・ハリエビッチに快勝したソツツ (ソ連)



← 110kg級
1位 KUZNICHENKO VALERI (ソ連)



+110kg級 →
ジャークで258kgの世界新記録を樹立し、トータルでも445kgの世界新記録をマークした A・ピサレンコ (ソ連)
写真は、ジャークで世界新を樹立し、喜びの表情を表わすピサレンコ。



ブルースワード国際大会戦評

(昭和57年4月2日～4日、東ドイツ・マイセン市)

チーム監督 福田 弘

期 日 昭和57年4月2日～4月4日

開催地 東ドイツ、マイセン市

参加国 12カ国

参加選手 76名

昨年の東ドイツWL協会幹部の話では、新らしく体育館を建て、そこで82年度ブルースワード大会は開催する予定であると語っていたので、今年は多分もっと大きくて、近代的な体育館で試合が行われるものと期待していたところ、今大会の歓迎レセプションの席上で、マイセン市長が「近い将来には新らしい体育館を設けますが、今年もガマンして頂きたい」と挨拶、期待ははずれてしまい、またまた狭い会場の超満員の観客をかき分けながらチームを監督し、観戦することになった。

浦田、試練のゼロ敗

日本チームは浦田公貴(52kg級)、市場孝士(56kg級)、平良朝治(67.5kg級)、砂岡良治(90kg級)の若手リフター4名が、不調者もなく参加、全員が好記録を出すのではないかと、出発前から楽しみにしていた。

結果としては全体的に見れば、その予想は的はずれではなかったものの、すべり出しでいく分くずれてしまった。

浦田君にしてみれば高校3年にユースの国際大会に海外に出掛けて以来の遠征であった訳であるが、本人にとっては今までになかった大きな減量(3kg程)に苦労し、おまけにウォームアップの失敗と過度の緊張が重なり試合の数日前にはジャーク120kgを軽く挙げていながら、115kgで3回失敗、ゼロ敗してしまった。また、試合のはるか以前から頭上支持不安定を改善するようにアドバイスしてきた(2月に来日したハンガリーのナショナル・コーチ、ハンズリック氏からも指摘されていた)が、これが改まっていかなかったり、ダバコの吸いすぎを注意しても我慢できず、少々自制の足りないところもあり、今後、国際的リフターとして活躍するためには、より早く欠点を改善し、自分の精神を制御できるように努力しなければならない点がある。既に浦田君は不足していた背筋の強さと使い方、目立って弱かった肩腕部の改善強化を成し遂げ、1年間でトータル30kgの向上を達成した実績があるので、ひとつ再奮起を望むところである。

市場の課題

ロスアンゼルス・オリンピックのメダリスト候補はといえば、市場君をその一人にあげたい。しかし、市場君には大きな欠点がひとつあり、そのため残念ながら今大会もスナッチ112.5kgを軽く挙げられ

たという以外、特にいゝところなく凡戦に終った。

市場君には「亀さん」というあだ名がある。それは体の割にだらっ広く、部厚く発達した背中を有しているところからいわれているところである。ところが市場君はその恵まれた背筋を十分に使わないブル・テクニックの持ち主なのである。つまり、スタート時に上体が立ってしまい、腰を下げすぎているため背筋が使えないのである。これは明らかに市場君の進歩を妨げる重大な要因となっており、容易に突破できるはずの260Kg台が破れないでいる。恐らく、これが改善されれば1年間もあれば270Kg台に達し得るのではないかと思うのだが……。

平良、マイセン陶器獲得!?

昨年の例からすると、日本チームは力を出し切れば、全員がマイセン陶器を手中に収め帰国できるかも知れないと、欲張っていたところ、出鼻で浦田君が失格、続いて市場君が体重差で4位に落ち、その後に、平良君がスナッチ、ジャーク、トータルの全種目で自己新をマークする大健闘を果したものゝ、4位にとどまり、残る砂岡君に望みをつなごうとしていたら、平良君に3位入賞の表彰状が手渡され、一同「やった!やった!」と大喜こびしたが、何のことではない、今年からは全階級を通して、優秀な記録を出したリフターから、順にマイセン陶器が与えられることに変更されており、3位以内に入賞しても関係がなくなっていたのである。おまけに、平良君は、やはり4位であったのであるが、自己新に続く自己新で、本人もコーチの我々もいたく感激していたもので、北朝鮮の金選手に逆転勝ちしたのを、3位逆転入賞と先方から感違いされてしまったらしいのである。

砂岡、ジャーク200Kgはお預け

日本人初のジャーク200Kgは、日本のWL関係者すべての願望のひとつであり、その第一号は砂岡君であろうと目されているが、あるいはこのブルースワード大会でやってくれるのではないかと、心秘かに劇的なシーンを期待していた。

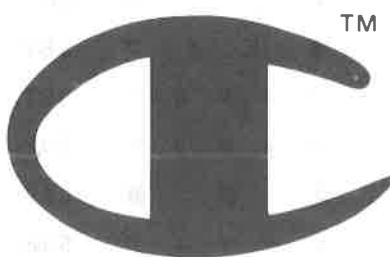
砂岡君自身、このところジャーク200Kgに目標をしばっていたゝめ、既に潜在的にはスナッチ155Kg程度の力は持っていると見られるものゝ、内容的に十分なスナッチ練習をしていなかつたので、やはり力の入れ具合がうまくいかず、タイミングを狂わせ、140Kgを3回目で成功という有様で、ひやひやさせられた。

期待のジャークでは、1本目185Kgを確実に決めた後、195Kgの日本新を問題なくみごとに成功したが、200Kgは立ち上がりにスムースさを欠き、差し上げでの余力を失なってしまった感があり、惜しくも失敗してしまった。しかし、検量体重は84Kgという軽量であり、82.5Kg級であっても遠からず200Kgは可能という印象であり、いずれにしても日本人初の200Kgは秒読みに入ったといって間違いないであろう。

東ドイツの新星

アメリカ・カップ、E・E・C・カップがブルースワード大会と同時期開催となつたため、外国のトップクラスの出場が少なく、いく分低調といった感がしたが、22才で妻子がいるという東ドイツのクンツ(67.5Kg級)はスナッチ152.5Kgの世界新を軽々と挙上し、場内を湧かせた。

今大会で注目すべきリフターは、昨年出場した椎名千代実君(60Kg級)に2.5Kgの差、トータル29.5Kg(132.5+162.5)で優勝、37.5Kgもの大躍進を見せた東ドイツのベムである。今年20才になるということなので、ジュニア世界選手権の有力な優勝候補になったばかりか、世界選手権の優勝争いにも加わり、昨年にも増して、今年の世界選手権の60Kg級は大激戦になりそうである。



チャンピオンプロダクツ
Champion products
U.S.A.

闘志に似合うのはチャンピオンプロダクツ。

ウェートリフティングといえば、ユニフォームはチャンピオンプロダクツ。その無類のタフネスぶりは、鮮やかなカラーリングは、また自由自在のマーキング・テクニックは、すべて今日の、また明日のチャンピオンたちのために。

GW
GOLDWIN
株式会社ゴールドウイン
〒150 東京都渋谷区松濤2-20-6
TEL(03)465-5411(代)

ブルースワード国際大会

(昭和57年4月2日～4月4日、東ドイツ・マイセン市)

☆印は、世界記録

順位	氏名	国	名	体	重	S	J	トータル
----	----	---	---	---	---	---	---	------

52.5 Kg級

1	S.Leletko	ポーランド	51.2	102.5	130	232.5
2	K.Urata	日本	52	92.5	0	—

56 Kg級

1	A.Letz	東ドイツ	56	120	155	275
2	D.Dimitrov	ブルガリア	56	112.5	150	262.5
3	H.Hoffman	東ドイツ	55.8	110	140	250
4	T.Ichiba	日本	55.9	112.5	137.5	250

60 Kg級

1	A.Behm	東ドイツ	59.6	132.5	162.5	295
2	D.Nunez	キューバ	60	127.5	155	282.5
3	F.Mav iue	東ドイツ	58.7	120	150	270
4	I.Simon	ハンガリー	59.7	117.5	147.5	265
5	E.Yankov	ブルガリア	59.2	115	147.5	262.5
6	Kim Tong Tschooll	北朝鮮	59.9	105	150	255
7	I.Balas	ルーマニア	59.8	110	135	245

67.5 Kg級

1	J.Kunz	東ドイツ	67.4	152.5	185	337.5
2	S.Kusnezow	ソ連	67.4	140	172.5	312.5
3	T.Piorek	東ドイツ	67	125	160	285
4	C.Taira	日本	66.8	120	162.5	282.5
5	Kim kwon Tak	北朝鮮	66.9	127.5	155	282.5
	J.Kunz	☆ステッチ	152.5			

75 Kg級

1	D.Dobrev	ブルガリア	74.1	142.5	185	327.5
---	----------	-------	------	-------	-----	-------

順位	氏名	国	名	体	重	S	J	トータル
2	H.Kubенка	東	ド イ ツ	74.2	142.5	185	327.5	
3	J.Pesat	チ	エ コ	74.4	140	170	310	
4	Z.Faras	ポ	ー ラ ン ド	74.8	137.5	170	307.5	
5	M.Nodek	チ	エ コ	74.2	135	170	305	
6	J.Klinkert	東	ド イ ツ	72.1	130	170	300	
7	J.Pisarenko	ソ	連	74	130	170	300	
8	U.Becker	東	ド イ ツ	74.6	130	170	300	
9	S.Möller	東	ド イ ツ	73.8	130	155	285	
10	G.Iuga	ル	ー マ ニ ア	72.1	125	157.5	282.5	

82.5 Kg級

1	D.Blasche	東	ド イ ツ	82.1	155	195	350
2	E.Göldner	東	ド イ ツ	80.7	147.5	187.5	335
3	L.Lamos	ハ	ン ガ リ 一	82.1	150	182.5	332.5
4	L.Vymazal	チ	エ コ	82.1	142.5	190	332.5
5	Z.Podgruezecki	ポ	ー ラ ン ド	81.6	150	180	330
6	I.Petrov	ソ	連	80.5	145	182.5	327.5
7	J.Alchimowicz	ポ	ー ラ ン ド	80	145	170	315
8	M.Lopez	フ	ラ ン ス	81.9	135	172.5	307.5

90 Kg級

1	H.Ducke	東	ド イ ツ	88.8	155	205	360
2	J.Kovacz	ハ	ン ガ リ 一	89.7	162.5	192.5	355
3	C.Ibanez	キ	ュ ー バ	87.3	155	192.5	347.5
4	G.Tschalakov	ブル	ガ リ ア	88.9	155	192.5	347.5
5	F.Ferreira	キ	ュ ー バ	84.7	157.5	185	342.5
6	R.Isaoka	日	本	84	140	195	335
7	J.Bak	ポ	ー ラ ン ド	89.5	150	185	335
8	T.Steiner	東	ド イ ツ	89.3	147.5	185	332.5

R.Isaoka ジャーク 195 (日本新記録)

100 Kg級

1	M.Henning	東	ド イ ツ	99.4	175	215	390
2	F.Mantek	東	ド イ ツ	93.6	170	215	385

順位	氏名	国	名	体	重	S	J	トータル
3	A.Komar	ポー ラ ン ド		95.8	160	215		375
4	I.Kind	東 ド イ ツ		98.4	155	220		375
5	G.Bessonow	ソ	連	95.9	165	202.5		367.5
6	N.Mladenow	ブルガリア		99.8	162.5	200		362.5
7	M.Ciernik	チ エ コ		98.6	155	205		360
8	L.Barton	チ エ コ		96.6	155	200		355

110Kg級

1	W.Klokov	ソ	連	108.8	172.5	217.5		390
2	J.Schimrcw	ソ	連	106.3	172.5	215		387.5
3	J.Niedzwieki	ポー ラ ン ド		105.7	157.5	210		367.5
4	V.Gregor	チ エ コ		106.9	160	207.5		367.5
5	R.Chavez	キ ュ ー バ		108.3	160	200		360
6	M.Wagenschwanz	東 ド イ ツ		102.2	150	200		350
7	M.Malina	ハンガリー		105.4	150	195		345
8	F.Hartmann	東 ド イ ツ		103.3	147.5	195		342.5

+110Kg級

1	J.Heuser	東 ド イ ツ		130.8	180	240		420
2	G.Kempe	東 ド イ ツ		127.4	180	220		400
3	S.Salzwedel	東 ド イ ツ		124.3	165	220		385
4	M.Balacs	ハンガリー		126.4	160	200		360
5	T.Rutkowski	ポー ラ ン ド		116.3	155	200		355
6	H.Müller	東 ド イ ツ		110.5	157.5	185		342.5
7	E.Fuentes	キ ュ ー バ		111.2	150	—		—

第28回全日本学生選手権大会個人戦

(1982年5月7日～5月10日 奈良県橿原体育館)

順位	氏名	学校名	年令	体重	S	J	トータル
----	----	-----	----	----	---	---	------

52kg級

1	浦田公貴	明治	21	51.95	95	115	210
2	恵清光	大商	21	51.75	90	115	205
3	佐藤好一郎	法政	18	50.15	825	105	1875

56kg級

1	西川莊吾	法政	21	55.75	1075	1325	240
2	森江克幸	日本	18	56	925	1175	210
3	磯部一美	大阪商業	20	55.95	925	115	2075

60kg級

1	原徹	日本体	20	58.1	110	130	240
2	島納武美	大阪商業	21	60.0	105	125	230
3	若林一彦	日本体	20	59.75	100	125	225

67.5kg級

1	平良朝治	法政	21	66.65	120	165	285
2	難波謙二	日本	20	67.45	120	150	270
3	加納修	早稲田	21	66.45	1125	155	2675

75kg級

1	佐々木保重	日本体育	21	74	135	1700	3050
2	上島春喜	日本体育	19	73	1175	1575	2750
3	皆藤聰明	明治	20	73.95	1175	155	2725

82.5kg級

1	吉田和久	日本体育	21	79.4	1275	155	2825
2	後藤和義	日本	20	75.2	125	155	280
3	松下忠光	日本	20	81.9	120	1575	2775

順位 氏名 学校名 年令 体重 S J トータル

90Kg級

1	砂岡 良治	日本体育	20	83.6	152.5	195	347.5
2	大塚 裕昭	日本	19	88.95	125	150	275
3	大嶋 総司	明治	20	89.6	122.5	150	272.5

100Kg級

1	戸松伸隆	日本	20	95.0	135	170	305
2	小宮山哲雄	日本	21	90.5	135	165	300
3	島袋隆之	日本体育	20	96.0	130	165	295

110Kg級

1	長谷章一	日本体育	21	100.5	125	160	285
2	安藤俊昭	日本体育	21	106.1	125	160	285
3	伊藤淑樹	日本	18	100.3	102.5	142.5	245

さわやかな汗が、未来を創る。

発電所から、ご家庭まで—総合設備企業『関電工』



幅広い分野で高い技術を発揮

関電工の工事は多岐にわたっています。発・変電所、送電線などの電力設備、ビル・工場などの動力・照明設備から、ご家庭の電灯・コンセント工事に至るまでのあらゆる電気設備はもちろんのこと、快適な生活環境をつくる空調設備、給排水設備、防災設備、さらには石油・化学プラント工場などの防爆・計装設備等を施工しています。『総合設備企業』として幅広い分野で活躍する関電工の技術は多くの皆さまから高いご信頼をいただいています。

- 信頼を高める関電工の施工技術
- 屋内線工事 ●空調工事 ●給排水工事
- プラント防爆工事 ●計装工事 ●防災工事
- 発電工事 ●送電線工事 ●配電線工事
- 地中線工事 ●土木工事 ●通信線工事



関東電気工事 株式会社

東京都文京区湯島4丁目1番18号 TEL 東京(03)812-5111(大代表)

第 1 7 回 日・韓親善大会

(昭和57年5月15日、韓日・ソウル市)

報告者 関 口 僕

1. 選手団及び大会の概要

役 員 中野 次男(副会長)

関 口 僕(競技力向上委員)

福 田 太 公(強化コーチ)

黒 川 光 行(強化コーチ)

選 手 団 52 Kg 佐久間 一也(今井小・教)

56 Kg 中西 正明(法政大3年)

60 Kg 長谷川 博一(法政大3年)

67.5 Kg 白石 嘉宏(日体大1年)

75 Kg 斎藤 徹(中央大4年)

82.5 Kg 後藤 和義(日大2年)

90 Kg 小宮山 哲雄(日大4年)

100 Kg 島袋 隆之(日体大3年)

110 Kg 戸松 伸隆(日大3年)

+110 Kg 榆原 道雄(前橋市民体育馆)

2. 大会期間 昭和57年5月15日

3. 場 所 韓国 ソウル市

4. 日本選手の成績

52 Kg級 佐久間 一也(S. 95 J. 120 T. 215) 1位

56 Kg級 中西 正明(S. 105 J. 125 T. 230) 2位

60 Kg級 長谷川 博一(S. 107.5 J. 135 T. 242.5) 2位

67.5 Kg級 白石 嘉宏(S. 105 J. 137.5 T. 242.5) 2位

75 Kg級 斎藤 徹(S. 130 J. 0 失格)失格

82.5 Kg級 後藤 和義(S. 0 J. 155 失格)失格

90 Kg級 小宮山 哲雄(S. 137.5 J. 167.5 T. 305) 3位

100 Kg級 島袋 隆之(S. 135 J. 175 T. 310) 3位

100 Kg級 戸松 伸隆(S. 137.5 J. 172.5 T. 310) 2位

+110 Kg級 榆原 道雄(S. 130 J. 170 T. 300) 1位

ア ジ ア 新 記 錄 誕 生

学生選抜を中心に参加した第17回日韓親善大会団体成績では、若手選手の編成ということで韓国トップ選手には少々力の差があったようで敗けてしまったが、学生らしいはつらつとした競技ぶりが随所に見られ、特に重量級で小宮山（日大）戸松（日大）島袋（日体大）等が自己の新記録を出すことができたことは、今後選手自身の飛躍に繋がることを信じている。張専務理事の死去最初の大会であった為か運営面でスムーズ差を欠いていたように思われるが、しかし記録面では100kg級で安智栄がジャーク種目200kg 110kg級では安孝爵がスナッチ種目160kgのアジア新記録を樹立し会場を沸かした。なお最優秀選手には安智栄が選考された。



表 彰 式



100kg級安智栄の気合の入ったジャーク200kgの成功は
(アジア新記録樹立となった。)

第 1 7 回 韓・日 親 善 大 会

(1982年5月15日, 韓国・ソウル市)

☆印は、アジア記録

52.5kg級

順位	氏名	国名	体重	S	J	トータル
1	佐久間 一也	日本	51.85	95	120	315
	李 勇 漢	韓国	52.0	0	115	—

56kg級

1	李 明 珠	韓国	55.9	107.5	140	247.5
2	中 西 正 明	日本	55.7	105	125	230

60kg級

1	李 龍 求	韓国	57.95	107.5	152.5	260
2	長谷川 博 一	日本	59.9	107.5	135	242.5

67.5kg級

1	李 桐 善	日本	67.3	120	160	280
2	白 石 架 宏	日本	67.45	105	137.5	242.5

75kg級

1	朴 春 宗	韓国	74.8	130	162.5	292.5
2	齊 藤 徹	日本	72.8	130	0	—

82.5kg級

1	申 東 澈	韓国	82.2	137.5	170	307.5
2	後 藤 和 義	日本	75.1	0	155	—

90kg級

1	李 光 鉉	韓国	89.55	140	185	325
2	金 磔 鉉	"	88	106.0	180	320
3	小宮山 哲 雄	日本	90	137.5	167.5	305

100kg級

順位	氏名	国名	体重	S	J	トータル
1	安 智 荣	韓国	96.8	155	197.5	352.5
2	戸 松 伸 隆	日本	95.5	137.5	172.5	310
3	島 袋 隆 之	"	97	135	175	310

110kg級

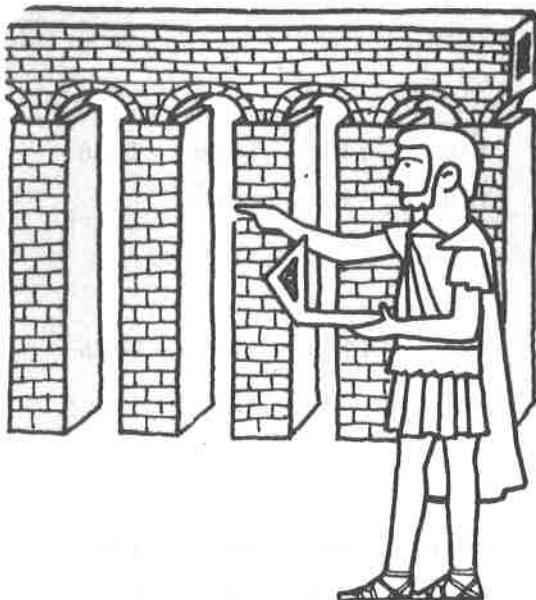
1	安 孝 爵	韓国	103.5	157.5	187.5	345
---	-------	----	-------	-------	-------	-----

+110kg級

1	榎 原 道 雄	日本	115.5	130	170	300
---	---------	----	-------	-----	-----	-----

安 智 荣	特別試技	☆	200
安 孝 爵	"	☆	160

建設は偉大な文明のシンボル



くらしに不可欠な補給路「水道用アーチ」は、ローマが生んだ栄光の遺産。奥村組はいまもなお立派に役立っているこの偉大な文明のシンボルを心とし、明日に向かって人類をうるおすモニュメントづくりをめざしています。

明日を築く――



株式会社 **奥村組**

本社：大阪市阿倍野区松崎町2-2-2 TEL 06(621)1101 〒545
東京本社：東京都港区元赤坂1-3-10 TEL 03(404)8111 〒107

第7回日中友好大会報告

(昭和57年5月24日、中国・杭州市)
5月27日、"・上海市

チーム監督 福田 弘

第1試合

期日 5月24日

開催地 杭州市

中国の地上の楽園のひとつといわれる、風光明媚な杭州での第1試合は、日本チーム選手7名という不利な点を、中国側の好意により、対抗戦形式を個人戦形式に急拵切り換えて行われた。この点については、藤原八郎団長及びコーチ陣は、日中友好が目的であり、いかなる競技形式であろうと問題はないということで喜んで受け入れた。

日本チーム予想外の圧勝!

日本チームも中国チームも、互いに最強メンバーを配した訳ではなかったが、両チーム共に、将来性のある若手を中心に編成した格好となっており、中国チーム9名ということもあって、誰しもが日本チームの勝者は少ないであろうことを疑っていなかった。

ところが試合が始まると、案に相異して、前半戦でスナッチ140kgの自己新をマークしながら、トータルでわずか2.5kgの差で中国の容家怀選手に破れた佐々木保重君(75kg級)以外は、前半、後半を合わせて6名が中国の選手に勝ち、おまけに、昨年の世界選手権の82.5kg級で日本の重量級のホーポ砂岡君を上回わっていた王国新選手を、90kg級で対戦した松尾謙資君がみごと打ち破り、中国チームを唖然とさせたのである。

青年男女が日本選手の汗を

友好試合というのは名ばかりではなかった。日本選手が暑い会場で体力と気力を使い果し息をはずませて控室に戻ろうとする姿を見かけると、若い青年男女がおしゃりで汗をふいてくれるという、ほほえましい光景が見られた。私自身、1966年に初めて中国に訪れて以来、いつも中国のもてなしぶりには恐縮していたものであったが、これほどのこととは初めてである。

資本主義と社会主義、体制は違えども、スポーツマン同士仲よく競い合い、既に7回目の友好試合を重ねてきたことは、よい意味でウエイトリフティングが、ささやかながら日中友好の小さな花を咲かせていることを意味している。その心構の表われの一端として、汗をふいてくれる姿となっているとみるのは、私のロマンチズムであろうか。

第 2 試 合

期 日 5月27日

開 催 地 上 海 市

上海の観客は、杭州の観客がウエイトリフティングをあまり見たことがないか、初めてといった人々が多かったようであるのに対しウエイトリフティング・ファンが多い印象であった。

ゼロ敗 続出の上海チーム

中国協会の幹部役員の一人、赴慶奎氏（元8.25Kg級ジャーク世界記録保持者）は、上海チームは強いといったので、日本チームの選手達は、いささか緊張した感じがあったが、上海に着いたところで、上海の協会幹部が、「そんなに強くない、それは日本選手が気を抜いてしまっては困ると思っていたのでしょう」と笑っていた。

ところが、2人の中国役員のいったことはまったく正解であり、上海チームは日本チームに最初から4階級はとれる（つまり日本選手が出場しないクラスが4つあるということ）有利さと、けっこうあなたがた実力を持つリフターもいて、高橋、村木、宮城君の3名の選手が持ち体重で出場する必要があったため、苦戦を強いられ、対抗戦を申し入れてきた上海チームに敗れる可能性が無きにしもあらずであったのである。

ところが、ところである、何と、上海チームは「カミカゼ」のごとく、次から次と無理なスタート重量を選び、6名もの選手がゼロ敗してしまい、完全に自滅してしまったのである。

上海チームにしてみれば、主大会の第1試合で完勝した、強力な日本チームの胸を借り地元の観客にいいところを見せようと、コーチ、選手共々気負いすぎたのであろう。しかし、これは結果的には、ウエイトリフティングを知っている上海の観客にとっては興味半減以外の何ものでもなかったであろう。

大川君、 フン闘の日本新

しらけ氣味の上海大会終盤で、花をそえてくれたのが大川君であった。日本を発つ前に好調な仕上がりを見せ、日本新は楽勝と、気を抜いたために第1試合では、出せるはずの日本新が不発に終り、上海大会では間違いなくやってくれると楽しみにしていたところ試合の前日から下痢をして、試合当日もトイレ通いで、げんなりとしていたが、スナッチの特別試技で148Kgの110Kg級日本新をマークした。

2試合連続ゼロ敗なし

今回の日本チームのコーチは、三木功司、細谷治郎の両氏であったが、よくチームを導き、2試合連続ゼロ敗なしを達成した。といっても、ゼロ敗を恐れるあまり、低いスタート重量を選ばせた結果ではなく、今回の日中友好大会を、ひとつの飛躍のステップとして積極的なスタート重量を認めての上であった。

歓送会に体育総合副主席

試合、見学、ショッピングと忙しくもあり楽しい日々があつたという間に過ぎたが、帰国前日の歓送会には、体育総合副主席（日本でいえば文部省次官クラス）の路金棟氏が出席、中国の日中友好の促進に対する、並々ならぬ配慮が感じられた。

折しも、日中国交回復10周年に今年はあたる。おまけに、最近、中国政府は日本との友好関係を最重要視する公式声明を発表。ウェイトリフティングにおいても、日中友好は新たな前進の段階にきたような印象である。



宮城ジャーカー 180Kg、上体を前方に突っ込みすぎ、
後足が流れ、惜しくも失敗（上海大会）



体調をくずしたとはいえる、今回の友好大会唯一の日本
新記録樹立者として、花をそえた大川（上海大会）

第 1 試 合

(昭和57年5月24日, 中国・杭州市)

順位	氏名	所属	体重	S	J	トータル
52 Kg級						
1	高橋 雅朝	日本	52	100	130	230
2	張耀鑫	中国	51.95	100	127.5	227.5
56 Kg級						
1	粟 景阻	中国	55.95	112.5	0	—
60 Kg級						
1	村木 洋介	日本	59.75	120	145	265
2	刘航迅	中国	59.8	115	145	260
67.5 Kg級						
1	周 功	中国	66.8	120	160	280
75 Kg級						
1	容 家怀	中国	72.75	137.5	170	307.5
2	佐々木 保重	日本	73.65	148	165	305
82.5 Kg級						
1	宮城 政章	日本	82.2	135	175	310
90 Kg級						
1	松尾 謙資	日本	85.5	145	177.5	322.5
2	王 国新	中国	84.8	145	175	320
100 Kg級						
1	佐藤 光正	日本	90.1	140	170	310
2	陳 平	中国		125	160	285
110 Kg級						
1	大川 克弘	日本	103.4	145	185	330
	郭 佛茹	中国	109.8	0	0	—
+110 Kg級						
1	陶 慧	中国	111.4	140	180	320

第 2 試 合

(昭和57年5月27日, 中国・上海市)

順位	氏名	所属	体重	S	J	トータル
52 Kg級						
1	田宗駿	中國	51.95	102.5	127.5	230
56 Kg級						
1	高橋雅朝	日本	55.35	105	127.5	232.5
失格	韓震宇	中國	56	0	0	—
60 Kg級						
1	邱建平	中國	60	110	145	255
67.5 Kg級						
1	村木洋介	日本	63.45	110	150	260
75 Kg級						
1	佐々木保重	日本	73.95	130	160	290
2	丁宏	中國	71.8	130	157.5	287.5
失格	赵秋迪	中國	74.85	0	0	—
82.5 Kg級						
失格	吳逸萍	中國	82.3	0	0	—
90 Kg級						
1	宮城政章	日本	83.9	142.5	172.5	315
2	蔡允法	中國	88.65	137.5	170	307.5
3	松尾謙資	日本	86.3	135	170	305
失格	毛传桅	中國	88.6	0	0	—
100 Kg級						
1	佐藤光正	日本	91.2	145	175	320
2	姜承左	中國	94.8	0	170	—
110 Kg級						
1	陳士榮	中國	108.65	120	170	290
+110 Kg級						
1	大川克弘	日本	102.3	140	185	325

* 大川, スナッチ特別試技 148Kg 日本新記録。

パンノニア国際大会

(昭和57年6月1日~6日、ハンガリー・ブダペスト)

監督 桜井勝利(競技力向上委員長)

コーチ 斎藤 隆(コーチ)

高橋 力(〃)

選手 52kg級 岩崎 賢二(藤岡高・教)

〃 牧野吉伸(玉野商高・教)

56kg級 西川莊吾(法政大)

60kg級 椎名千代実(千秋薬品)

67.5kg級 難波謙二(日大)

75kg級 武井多加志(山梨県公園管理事務所)

☆印は、世界記録

順位	氏名	国名	体重	S	J	トータル
52kg級						
1	Hadjiev Jubomir	BUL	52	112.5	140	252.5
2	Ho Bong Tschol	PRK	51.5	105.0	132.5	237.5
3	Patrovics Geza	HUN	51.8	105.0	130	235
4	Makino Yosinobu	JPN	51.8	100	130	230
5	Viktor Sokolovskii	URS	51.9	97.5	130	227.5
6	Juan Hernandez	CUB	51.6	100	125	225
7	Wu Shong	CHN	51.7	95.0	125	220
8	Gutowsky Jacek	POL	52	100	120	220
9	Humberto Fuentes	VEN	50.4	92.5	115	207.5
10	Nick Voukolatos	AUS	52	92.5	115	207.5
11	Veven Erdoan	TUR	51.8	90	112.5	202.5
12	Diniz Raul	POR	51.7	85	115	200
13	Mustafa Hafez	EGY	52	82.5	102.5	185
	Iwasaki Kenji	JPN	51.3	95	125	220

HADJIEV JUBOMIR

☆ トータル 252.5

順位	氏名	国名	体重	S	J	トータル
----	----	----	----	---	---	------

56 Kg級

1	Hasanov Hasan	BUL	55.3	112.5	145	257.5
2	Stefancvics Imre	HUN	55.7	110	140	250
3	He Yicheng	CHN	55.9	105	137.5	242.5
4	Nishikawa Shogo	JPN	54.6	107.5	130	237.5
5	Zaitsen Sergej	URS	55.7	105	132.5	237.5
6	Lorenzó Orsini	AUS	56	100	130	230
7	Julio Guerrero	CUB	53.9	97.5	115	212.5

60 Kg級

1	Daniel Nunez	CUB	59.9	130	167.5	297.5
2	Manolov Beloslav	BUL	59.8	130	165	295
3	Letz Andreas	GDR	59.9	125	152.5	277.5
4	Ziatdiniv Ildus	URS	59.9	120	155	275
5	Shen Huasheng	CHN	60	122.5	150	272.5
6	Li Hi Bong	PRK	59.6	115	155	270
7	Lónárt István	HUN	59.1	125	142.5	267.5
8	Golik Tadeus	POL	59.4	115	145	260
9	Shiina Chiyomi	JPN	59.6	117.5	140	257.5
10	Sidioropoulos L.	GRE	59.7	110	145	255
11	Laws Geoff	GBR	59.3	110	137.5	247.5
12	Mohmed Altin	TUR	60	97.5	137.5	235
13	Mario Sferruzza	FRA	59.9	100	135	235
14	Mohamed Yousef	EGY	59.8	95	137.5	232.5
15	Berisa Gazim	YUG	59.8	95	135	230
16	Alfonso Castillo	VEN	59.4	100	122.5	222.5

MANOLOV BELOSLAV

特別試技 ☆ スナッチ 135.5

67.5 Kg級

1	Galabarov Vaselin	BUL	66.8	145	170	315
2	Gracsev Vladimir	URS	67.4	137.5	170	307.5
3	Ma Jian Ping	CHN	67.1	127.5	165	292.5
4	Módis László	HUN	67.2	132.5	157.5	290

順位	氏名	国名	体重	S	J	トータル
5	Bill Stellics	AUS	66.9	127.5	160	287.5
6	Josefi Sahran	IRN	65.5	125	155	280
7	Raresi Carmelo	ITA	67.5	125	155	280
8	Nanba Kenju	JPN	67.3	122.5	147.5	270
9	Hasan Has	TUR	67.3	122.5	145	267.5
10	Toralf Serhein	NCR	67.1	110	137.5	247.5
11	Des Franja	YUG	65.8	110	130	240

75Kg級

1	Pashov Mincho	BUL	74.1	145	195	340
2	Julio Echenique	CUB	73	147.5	185	332.5
3	Pakizebdjam Ali	IRN	75	150	182.5	332.5
4	Kunz Joachim	GDR	71.4	147.5	182.5	330
5	Varga Lajos	HUN	74.5	145	177.5	322.5
6	Drska Dusan	TCH	74.1	135	175	310
7	Takei Takashi	JPN	74.5	142.5	157.5	310
8	Kuznetzov Szergej	URS	70.9	135	170	305
9	Román Kainz	AUT	74.3	135	170	305
10	Chris Ford	AUS	74.7	130	165	295
11	Mohamed Abdalah	EGY	74.8	125	167.5	292.5
12	Michael Reed	USA	74.5	132.5	157.5	290
13	Saleh Mohamed Kadhum	IRQ	75	130	160	290

82.5Kg級

1	Zlatev Assen	BUL	82.1	165	205	370
2	Talaev Valeri	URS	82	160	200	360
3	Mandzák Bertalan	HUN	82.3	162.5	190	352.5
4	Lubomir Vymazal	TCH	81.6	145	195	340
5	Kiskalo Tibéru	ROH	81.3	152.5	185	337.5
6	Pedicone Vincenzo	ITA	80.5	150	185	335
7	Maka Andrzej	POL	80	150	180	330
8	Andrique Saborit	CUB	78.7	140	185	325
9	Robert Kabbas	AUS	81.7	140	182.5	322.5
10	Islamolidour M.	IRN	80.8	140	175	315

順位	氏名	国名	体重	S	J	トータル
11	Pak Bjong Gil	PRK	81.6	137.5	177.5	315
12	Feiffer Reinold	AUT	82.1	135	175	310
13	Gunar Martinsson	SWE	80	137.5	170	307.5
14	Maack Keelen	GBR	82.1	137.5	170	307.5
15	Gerald Roland	FRA	81.6	122.5	152.5	275
16	Samir Owajed	PAL	81.3	85	120	205

90 Kg級

1	Bessonov Gennadij	URS	89.6	172.5	207.5	380
2	Baczakó Péter	HUN	89	162.5	210	372.5
3	Mantek Fráňk	GDR	89.2	165	202.5	367.5
4	Ciró Ibanez	CUB	85.5	157.5	197.5	355
5	Barton Vladislav	TCH	89.9	152.5	190	342.5
6	Derricky Grass	USA	89.8	145	192.5	337.5
7	Franz Krautgartner	AUT	89.5	145	185	330
8	Mick Sablajck	AUS	88.4	145	180	325
9	Corpodean Traiám	ROM	89.7	145	175	320
10	Henri Hoeg	DEN	88.1	140	175	315
11	Illiug Ioannis	GRE	89.6	140	175	315
12	Horadi Ali	IRN	87.3	140	170	310
13	Bernt Anderson	NOR	86.6	137.5	160	297.5

100 Kg級

1	Matikievicz Brunó	TCH	99.4	182.5	212.5	395
2	Ivan Angelov	BUL	95.2	170	210	380
3	Hlavati András	HUN	98	170	202.5	372.5
4	Daniela Risak	POL	99.8	167.5	200	367.5
5	Felix Aguero	CUB	97.5	157.5	195	352.5
6	Gino Fratangelo	AUS	96.6	152.5	192.5	345
7	Mario Wagenschwanz	GDR	98	150	190	340
8	Raet Özee	TUR	93.2	145	180	325
9	Mikolic Alexander	YUG	98.8	132.5	180	312.5
10	Hasscn Garib	EGY	93.7	132.5	167.5	300
11	Dalammeraere Daniel	BEL	93.7	130	162.5	292.5

順位	氏名	国名	体重	S	J	トータル
12	Mohamed Jawad	IRQ	92.1	130	160	290
13	Jesama Jesus	VEN	98.8	130	160	290
14	Mats Aronsson	SWE	96.7	125	160	275

110Kg級

1	Chalakov Jordan	BUL	105.3	177.5	225	402.5
2	Solar Peter	TCH	109.3	180	215	395.
3	Niedzwiecki Jan	POL	107.5	167.5	215	382.5
4	Végi Imre	HUN	108.8	170	202.5	372.5
5	Dunajev Andrei	URS	104.7	165	200	365
6	Richard Milsson	SWE	106.5	160	192.5	352.5
7	Joseph Kabalan	AUS	101	142.5	187.5	330
8	Hosseini Azis	IRN	103	140	182.5	322.5

+110Kg級

1	Krastev Antaon	BUL	133.5	190	220	410
2	Klokov Vtacheslav	URS	110.3	170	217.5	387.5
3	Bokuslab Braun	TCH	141.5	177.5	210	387.5
4	Réti István	HUN	156	177.5	210	387.5
5	Dean Lukin	AUS	130.4	160	215	375
6	Tsintsaris Ioannis	GRE	129.1	155	180	335

**JOC杯第3回全日本ジュニア選手権大会
兼第8回ジュニア世界選手権大会選考会**

(1 9 8 2 年 6 月 5 日 ~ 6 月 6 日 東京・日大小体育館)

順位	氏名	県名	所属	体重	S	J	トータル	備考
----	----	----	----	----	---	---	------	----

52 Kg級

1	佐藤好一郎	大阪法政大学	50.6	80	1075	1875	
2	尾関貞寿	愛知名城大学	51.65	875	100	1875	
3	戸板弘美	岡山水菱プラスチック	51.6	775	105	1825	
4	知念真栄	沖縄法政大学	51.65	775	105	1825	
5	小路幸喜	富山中央大学	51.6	775	100	1775	

56 Kg級

1	原徹	群馬日本体育大学	55.9	1075	1325	240	S 107.5 J 132.5 T 240 } 大会新
2	並木良憲	東京中央大学	55.6	975	1175	215	
3	渡辺晃治	宮城東北リコーカーKK	55.1	95	115	210	
4	森江克幸	埼玉日本大学	55.95	95	115	210	
5	吉野孝司	埼玉日本大学	55.8	90	115	205	

60 Kg級

1	長谷川博一	愛知法政大学	59.25	110	1325	2425	
2	藤田章	青森日本体育大学	60	1025	130	2325	
3	金子訓久	栃木日本体育大学	59.75	105	125	230	
4	平山光則	長崎九州共立大学	59.3	975	1225	220	
5	須田了史	栃木日本大学	59.3	90	110	200	
	吉家守	秋田法政大学	59.45	925	0	—	
	吉村修身	山梨法政大学	59.8	0	—	—	

67.5 Kg級

1	平仲康	沖縄法政大学	67.15	115	145	260	
2	高橋学	岩手中央大学	66.95	1225	132.5	255	
3	生瀬俊秀	兵庫日本体育大学	65.9	110	135	245	
4	白石嘉宏	兵庫日本体育大学	66.3	110	135	245	
5	久保敬	兵庫日本体育大学	67.5	105	140	245	
6	三浦健次	滋賀中京大学	66.7	95	130	225	

順位	氏名	県名	所	属	体 重	S	J	トータル	備 考
7	金城 悟	沖縄	九州共立大学		64.3	100	120	220	

75 Kg級

1	後藤 和義	秋田	日本 大学	74.3	125	160	285	S 125 T 285	大会新
2	上島 春喜	長崎	日本体育大学	74.15	120	162.5	282.5	J 162.5	大会新
3	西山 浩司	大阪	大阪工業大学高校	73.6	120	150	270	T 270	高校タイ
4	平仲 健	沖縄	法政 大学	74.3	120	150	270		
5	佐野 彰	新潟	中央 大学	74.25	120	147.5	267.5		
	多田 裕次	岡山	三菱石油KK	74.35	0				

82.5 Kg

1	砂岡 良治	栃木	日本体育大学	82	150	190	340		
2	新垣 盛幸	沖縄	九州共立大学	75.15	117.5	140	257.5		
3	久津輪洋昭	鹿児島	大阪商業大学	80.95	110	147.5	257.5		
4	西山 正浩	東京	日本体育大学	75.25	105	140	245		

90 Kg級

1	松下 忠光	沖縄	日本 大学	83.15	125	157.5	282.5		
2	大塚 裕昭	栃木	日本 大学	89.95	125	157.5	282.5		
3	山田 一則	滋賀	中京 大学	88.3	115	150	265		
4	清野 裕司	福島	日本 大学	85.75	115	140	255		

100 Kg級

1	戸松 伸隆	岐阜	日本 大学	95	137.5	175	312.5		
---	-------	----	-------	----	-------	-----	-------	--	--

第10回東日本学生ウエイトリフティング選手権大会

(昭和57年6月10日~12日、東京・大田区体育館)

順位	氏名	学校名	年令	体重	S	J	トータル
----	----	-----	----	----	---	---	------

52Kg級

1	佐藤好一郎	法政大学	18	50.65	80	105	185
2	知念真栄	"	18	51.75	80	105	185
3	小路幸喜	中央大学	18	51.3	77.5	97.5	175

56Kg級

1	西川莊吾	法政大学	21	55.45	102.5	132.5	235
2	中西正明	"	20	55.35	105	127.5	232.5
3	原徹	日本体育大学	20	55.6	100	132.5	232.5

60Kg級

1	長谷川博一	法政大学	20	59.4	107.5	130	237.5
2	金子訓久	日本体育大学	19	59.7	105	130	235
3	片山修司	明治大学	19	59.75	100	125	225

67.5Kg級

1	平良朝治	法政大学	21	66.7	115	155	270
2	加納修	早稲田大学	21	67.35	112.5	152.5	265
3	難波謙二	日本大学	20	66.9	117.5	145	262.5

75Kg級

1	佐々木保重	日本体育大学	21	73.85	135	167.5	302.5
2	平仲健	法政大学	19	73.85	127.5	152.5	280
3	上島春喜	日本体育大学	19	73.2	115	150	265

82.5Kg級

1	後藤和義	日本大学	20	75.2	127.5	157.5	285
2	吉田和久	日本体育大学	21	78.6	125	155	280
3	来原明宏	中央大学	21	81.85	120	157.5	277.5

順位	氏名	学校名	年令	体重	S	J	トータル
90 Kg級							
1	砂岡 良治	日本体育大学	20	82.85	145	185	330
2	大塚 裕昭	日本大学	19	88.9	130	1575	2875
3	大嶋 総司	明治大学	20	88.9	120	1525	2725
100 Kg級							
1	戸松伸隆	日本大学	20	94.6	142.5	175	3175
2	島袋 隆之	日本体育大学	20	94.5	137.5	170	3075
3	小宮山 哲雄	日本大学	21	90.6	135	1675	3025
110 Kg級							
1	筒井 芳孝	日本大学	22	100.15	130	1625	2925
2	安藤 俊昭	日本体育大学	21	103.7	127.5	160	2875
3	長谷 幸一	"	21	100.15	115	145	260
+110 Kg級							
1	祝迫 貴司	国学院大学	21	116.8	92.5	130	2225

第42回全日本選手権大会兼オリンピック ロスアンゼルス大会第1次候補選手選考会

(昭和57年7月9日～11日、埼玉・上尾市民体育館)

第42回全日本選手権大会は7月9日から7月11日の3日間に亘り新設された上尾市民体育館で参加63名で、優勝が争われアジア新記録3個、日本新記録11個、日本タイ記録5個が誕生し、中でも世界記録に5kgとせまる52kg級真鍋和人(一宮グループ)の247.5kg、アジア新記録を樹立した90kg級砂岡良治(日体大)のジャークの200kgはロスアンゼルスオリンピックに向けて明るい材料となろう。

[52kg級] スナッチ種目では宮下が2回目に112.5kgを軽がると成功させ、次いで真鍋が3回目に115kg、4回目に114.5kgの世界記録に挑戦したが惜しくもバーは後に流れ失敗に終った。

優勝候補筆頭の真鍋はスナッチ112.5kgの日本新、ジャークで135kgの日本タイ記録、トータル247.5kgの日本新記録で堂々他を圧倒して昨年の世界選手権大会第1位に相当する好記録で2度目の優勝となった。

2位争いは、スナッチで112.5kg日本新記録を樹立した宮下が新銃牧野のジャークの追い込みをかわし240kg日本タイ記録で2位を確保。3位はジャークで137.5kgの逆転をねらって失敗した牧野が、スナッチで失敗した高橋に体重差で確保した。

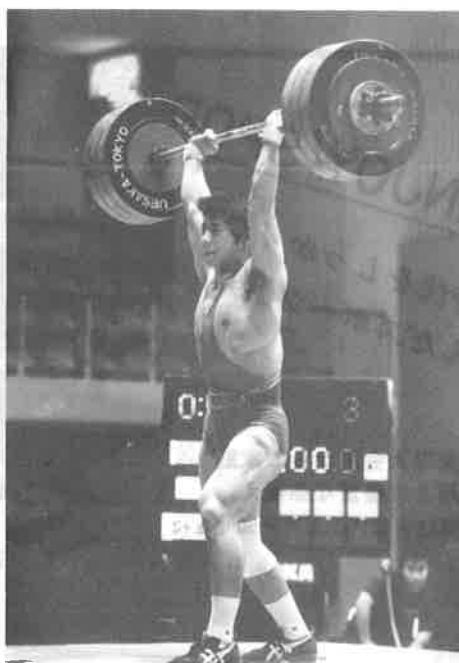
[56kg級] 優勝候補の一角、小高がスナッチで失格したため市場が楽々とトータル257.5kg、日本タイ記録で初優勝した。又学生の西川がジャークで140.5kg・大学新記録を成功させ、トータル245kgで2位、3位は小林のトータル242.5kgであった。

[60kg級] 新井がスナッチで120kgをあげともにならび、またジャークでも2回目で150kgをともに成功させ、優勝は3回目の試技にもちこされたが先に152.5kg・大会タイ記録を成功させた村木が逆転をねらった新井の155kgの惜しい失敗により初優勝を飾った。

[67.5kg級] 島屋が手堅くスナッチ127.5kg、ジャーク160kg、トータル287.5kgで、2位以下に17.5kg差をつけて優勝したが、しかし怪我等が原因で島屋本来の記録でないため今後一層の奮起を期待したい。

[75kg級] 優勝候補の福田がスナッチ140kgで失格したため新銃の武井と佐々木の争いとなり、ジャ

日本初の200kgリフター誕生



90kg級ジャークで200kgを成功
させた砂岡(日体大)

ーク 16.7.5 Kg を手堅くきめた武井がトータル 30.7.5 Kg で佐々木をおさえて初優勝を飾った。2位佐々木 30.5 Kg, 3位斎藤 29.0 Kg。

[82.5 Kg 級] 平岡、宮城の優勝争いとなったがスナッチ 14.0 Kg でリードした平岡がトータル 31.5 Kg で、ジャークで逆転の 18.2.5 Kg に失敗した宮城をおさえ優勝した。2位宮城 30.5 Kg, 3位吉田 28.5 Kg

[90 Kg 級] 期待の星・砂岡がスナッチ 15.5 Kg, ジャーク 20.0 Kg, トータル 35.5 Kg のアジア新記録で2位を 5.2.5 Kg 引き離し2連覇した。特にジャークの 20.0 Kg は、日本では全階級を通じて最高挙上重量であり、アジアでも 90 Kg 級では最初という立派な記録であった。8月に出場するジュニア世界選手権で挑戦すると思われる 82.5 Kg 級ジャーク世界新記録 20.5.5 Kg に期待したい。

2位小宮山 30.2.5 Kg, 3位上田 29.2 Kg。

[100 Kg 級] 佐藤と松尾の優勝争いに焦点がしばられたが、スナッチで 15.0 Kg を成功させ 2.5 Kg リードした佐藤が松尾をおさえ 3 度目の優勝を果した。

[110 Kg 級] 大川が順当にスナッチ 14.0 Kg, ジャーク 18.0 Kg, トータル 32.0 Kg の大会新記録で優勝したが成功率が悪く日本記録は更新できなかった。

2位柴崎 30.0 Kg, 3位安藤 29.7.5 Kg。

[+110 Kg 級] 優勝候補の福崎がスナッチ 14.7.5 Kg, ジャーク 17.8 Kg, トータル 32.5 Kg の日本新記録で堂々 2 位に 2.0 Kg の差をつけて優勝。

2位楢原 30.5 Kg, 3位杉本 30.0 Kg。

ENJOY! SPORTS

時代をしっかりつかんだスポーツ器具

国際大会用からご家庭用まで豊富な品揃え。
卓球台国内シェアー50%

発売元
SAN-EI
製造元
松田合板工業株式会社

本社 〒110 東京都台東区北上野 2-21-4
工場 〒270-01 千葉県流山市東初石 5-148
営業所 東京西・大阪・仙台・千葉・名古屋・福岡
●お問い合わせは最寄りのスポーツ店またはデパートへ

第42回全日本選手権大会兼オリンピック ロスアンゼルス大会第一次候補選手選考会

(昭和57年7月9日~11日, 埼玉, 上尾市民体育館) ☆印は, 日本記録

52kg級

レフリー 中川, 三木, 望月

順位	氏名	府県名	所属	年令	体重	S	J	合計
1	真鍋 和人	愛媛	一宮グループ	23	51.6	112.5	135.	247.5
2	宮下 日出海	埼玉	自衛隊体育学校	25	51.9	112.5	127.5	240.
3	牧野 吉伸	岡山	玉野商高・教	23	51.6	102.5	130.	232.5
4	高橋 雅朝	新潟	養護学校・教	29	52	100.	132.5	232.5
5	岩崎 賢二	群馬	藤岡高・教	27	51.8	97.5	130.	227.5
	佐久間 一也	静岡	今井小学校・教	23	51.9	95	0	—
	善教 進	広島	佐伯産業	34	51.4	92.5	0	—

真鍋 和人

☆ スナッチ 112.5

☆ トータル 247.5

宮下 日出海

☆ スナッチ 112.5

56kg級

レフリー 諸岡, 福田, 伊藤

1	市場 孝士	埼玉	自衛隊体育学校	21	55.8	115	142.5	257.5
2	西川 庄吾	学連法政大	学	21	55.5	105	140.5	245
3	小林 寛	新潟	三条市役所	26	55.6	105	137.5	242.5
4	杉江 均	栃木	萬自動車	24	54.7	107.5	127.5	235
5	古賀丈士	愛知	トヨタ自工	21	56	97.5	127.5	225
	中西正明	学連法政大	学	21	55.7	0	127.5	—
	小高正宏	兵庫	県立盲学校・教	22	55.7	0	—	—

60 Kg級

セイコ日本選手権大会本日全国又は横

会本選手権日本第一基準レフリーゼン木、望月、中川

順位	氏名	府県名	所屬	年令	体重	S	J	合計
1	村木洋介	岡山	精思高・教	22	59.8	120	152.5	272.5
2	新井克治	新潟	高儀	23	59.9	120	150	270
3	我孫子薰	埼玉	自衛隊体育学校	24	59.3	115	145	260
4	山中康歲	埼玉	自衛隊体育学校	27	59.6	117.5	140	257.5
	今井勇夫	東京	警視庁	27	59.7	117.5	0	—
	椎名千代実	秋田	千秋薬品	24	59.6	0	—	—

67.5 Kg級

レフリー 森、中島、鈴木

1	島屋八生	福岡	九州共立大・教	28	65.4	127.5	160	287.5
2	難波謙二	学連	日本大学	21	67	120	150	270
3	小池務	群馬	前橋桂音中・教	29	67	115	155	270
4	佐藤光義	東京	警視庁	28	67.2	117.5	150	267.5
	平良朝治	学連	法政大学	21	66.2	0	—	—

75 Kg級

レフリー 森、中島、鈴木

1	武井多加志	山梨	公園管理事務所	23	73.5	140	167.5	307.5
2	佐々木保重	学連	日本体育大学	21	73.5	140	165	305
3	齊藤徹	山形	庄内教育事務所	22	72	130	160	290
4	上園一春	埼玉	自衛隊体育学校	23	72.9	127.5	155	282.5
	大輪嘉孝	長野	松本市役所	25	73.8	115	0	—
	後藤和義	学連	日本大学	20	74	132.5	0	—
	福田輝彦	滋賀	木村機械建設工業	25	74.6	0	—	—

82.5 Kg級

レフリー 森, 中島, 鈴木

順位	氏名	府県名	所属	年令	体重	S	J	合計
1	平岡 力	静岡	清水市消防署	24	81.6	140	175	315
2	宮城政章	沖縄	国頭村教育委員会	22	82.3	135	170	305
3	吉田惣治	長崎	久原養護学校・教	24	79.5	130	155	285
4	早瀬昇	奈良	大淀高・教	25	82	122.5	155	277.5
5	常深英登	石川	県養護学校・教	26	81.3	120	155	275
6	稻岡脈雄	北海道	北海道電力	25	79	0	160	—
7	目黒正雄	東京	警視庁	25	80.1	0	—	—
	中村 齊	埼玉	自衛隊体育学校	22	77.8	0	—	—

90 Kg級

レフリー 諸岡, 福田, 伊藤

1	砂岡 良治	学連	日本体育大学	20	85	155	200	355
2	小宮山哲雄	学連	日本大学	21	89.7	137.5	165	302.5
3	上田 登	京都	城南開発興業	26	89.6	130	167.5	297.5
4	森川 浩一	福井	県運動公園事務所	26	88.4	130	162.5	292.5
5	平原 孝二	神奈川	丸久製作所	26	89.1	125	165	290
	堀内 喜良	学連	中央大学	22	82.7	120	0	—
	福本 幸之助	愛知	玉野川学園・教	24	86.6	0	—	—

砂岡 良治

☆ スナッチ 155 (アジア記録)

☆ ジャーク 200 ("")

☆ トータル 355 ("")

100 Kg級

レフリー 伊藤, 福田, 諸岡

1	佐藤光正	群馬	県総合体育センター	26	90.1	150	180	330
2	松尾謙資	東京	警視庁	24	90.1	147.5	175	322.5
3	島袋隆之	学連	日本体育大学	20	94	135	175	310
4	戸松伸隆	学連	日本大学	20	97.1	135	170	305

順位	氏名	府県名	所屬	年令	体重	S	J	合計
5	菊田 三代治	石川	珠川市教育委員会	29	94.4	132.5	165	297.5
	宮下 覚滋賀	京都	皇子山トレーニングセンター	25	91.6	0	—	—

110Kg級

レフリー 望月, 三木, 中川

1	大川 克弘	大阪	大阪府警	26	103.8	140	180	320
2	柴崎 恒二	群馬	マニハ食品	31	100.1	130	170	300
3	安藤 俊昭	学連	日本体育大学	21	105.1	130	167.5	297.5
	軽部 剛	神奈川	目黒高・教	24	100.1	127.5	0	—

+110Kg級

レフリー 望月, 三木, 中川

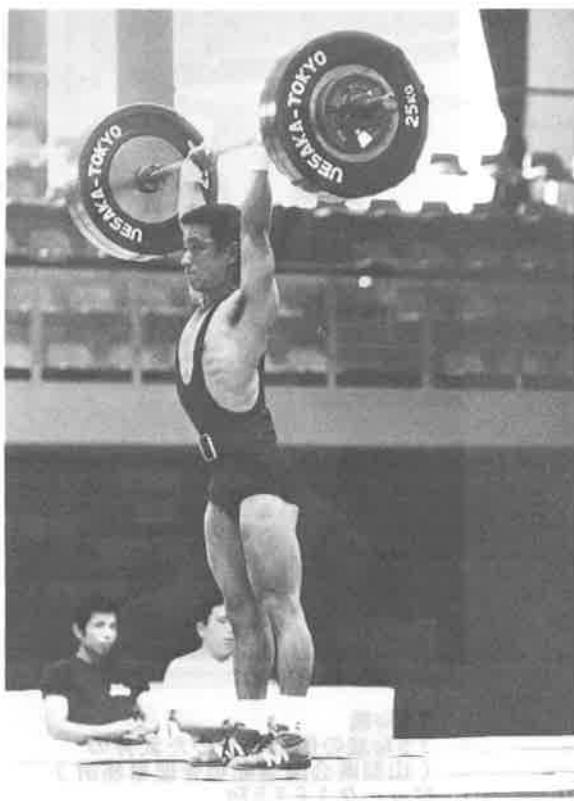
1	福崎 君夫	岩手	零石中・職	24	118.4	147.5	178	325
2	榆原道雄	群馬	前橋市民体育館	25	113.9	135	170	305
3	杉本誠起	香川	三豊総合病院	37	110.1	130	170	300
4	岩崎雄二	東京	警視庁	33	110.1	130	165	395

福崎君夫

☆ スナッチ 147.5

☆ ジャーク 178

☆ トータル 325



52Kg級

真鍋の安定したジャーク 135Kg



56Kg級

堂々優勝をきめた市場の
ジャーク 142.5Kg



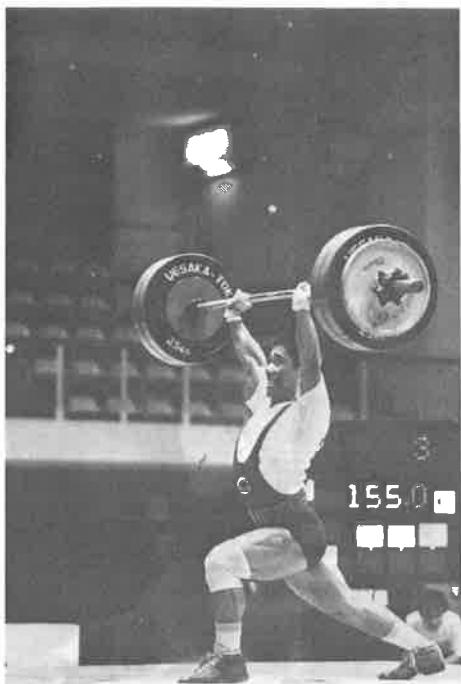
おしくも失敗に終った宮下の

114.5Kgスナッチの世界新記録



60Kg級

安定したジャーク 152.5Kgで
初優勝した村木



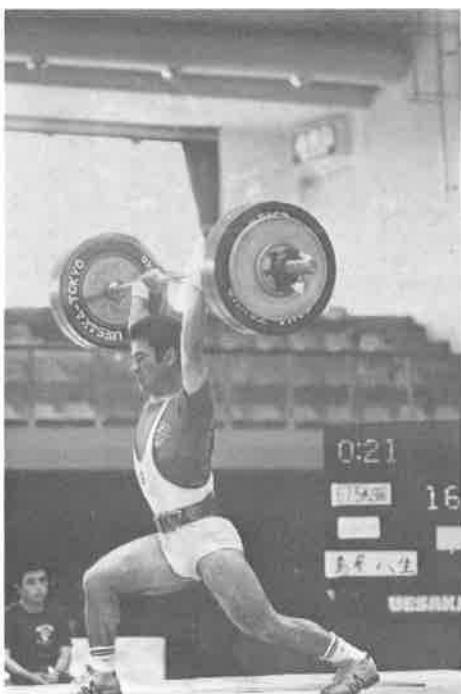
60Kg級

逆転ジャーク 155Kg おしくも失敗
で2位に甘んじた新井(高儀樹)



75Kg級

75Kg級の優勝をきめた武井の
(山梨県公園運動場管理事務所)
ジャーク 167.5Kg



67.5Kg級

パーフェクト・ゲームで優勝した
67.5Kg級の島屋
(九州共立大・教)

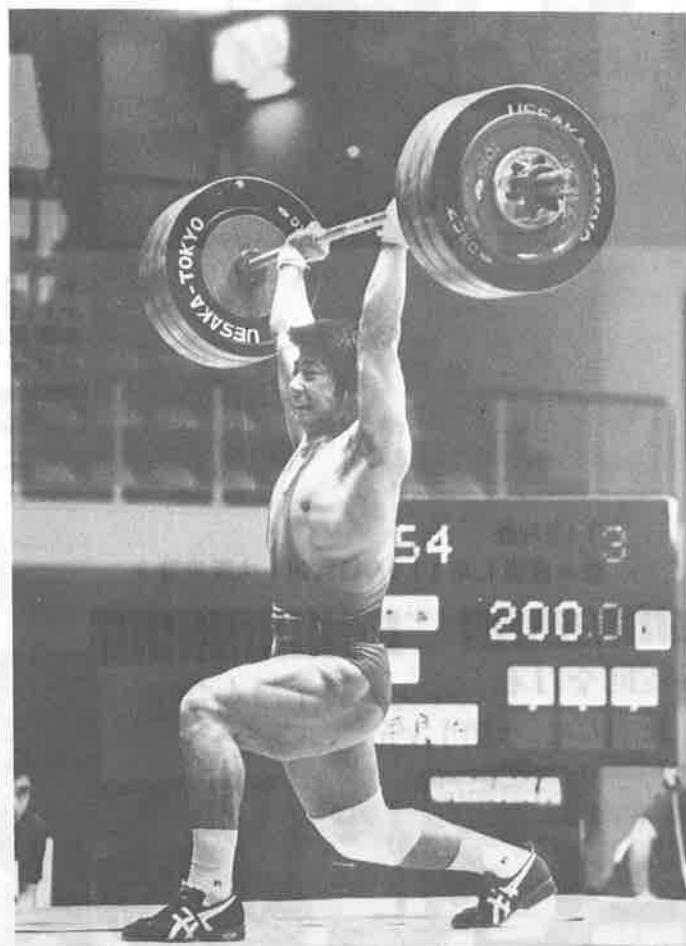


82.5Kg級優勝をきめた平岡の

ジャーク 175Kg



おしくも2位に甘んじた新鋭
佐々木(日体大)のスナッチ 135Kg



日本人初のジャーク 200Kg リフター誕生
大活躍の砂岡(日体大)

スナッチ 155Kg の日本新記録と
好スタートをした 90Kg 級の
砂岡



カンバックなった 100Kg 級
佐藤
貴重な優勝 左・松尾、右・島

+110Kg 級
+110Kg 級のジャークで 178Kg の日
本新記録で優勝した福崎(零石中・職)
の安定した試技



第29回全国高校ウエイトリフティング競技選手権大会

(昭和57年8月3日~6日、鹿児島、牧園海洋センター)

52Kg級記録

順位	氏名	都道府県	学校名	学年	体重	S	J	トータル
1	庄司晃久	和歌山	和歌山工業	3	51.5	87.5	102.5	190
2	大田浩秋	宮崎	小林工業	3	51.8	80	100	180
3	深見直人	鹿児島	鹿児島商工	2	51.6	80	95	175
4	藤野俊介	福岡	筑紫工業	2	51.9	82.5	92.5	175
5	小松向人	秋田	金足農業	3	51.	75	97.5	172.5
6	豊田広和	三重	亀山	3	51.6	75	97.5	172.5
7	河又浩	茨城	高萩工業	3	50.8	75	95	170
8	富沢直明	山口	豊浦	3	51.0	75	95	170

56Kg級記録

1	山口稔	東京	城西大学附属城西	3	55.2	95	115	210
2	花城正樹	大阪	大阪工業大学	2	54.5	85	115	200
3	佐藤宇宙	秋田	秋田経済大学附属	3	55.4	90	110	200
4	嘉藤英一	島根	出雲農林	3	55.1	87.5	105	192.5
5	星野宏	群馬	利根農林	3	55.4	85	107.5	192.5
6	中井幸夫	三重	亀山	3	55.8	87.5	105	192.5
7	伊藤信	山形	庄内農業	3	55.9	85	107.5	192.5
8	玉井大介	兵庫	尼崎工業	3	55.6	75	107.5	182.5

60Kg級記録

1	小栗和成	岐阜	中津	3	58.5	100	122.5	222.5
2	石川賢一	埼玉	埼玉栄	3	59.6	92.5	115	207.5
3	細沼誠	東京	城西大学附属城西	3	59.7	97.5	110	207.5
4	佐々木司	秋田	金足農業	2	59.6	95	110	205
5	矢野錦也	愛知	名古屋電気	3	58.5	90	110	200
6	西沢勝美	青森	柏木農業	2	58.7	90	110	200
7	三好雅弘	山口	下関工業	3	58.8	95	105	200
8	佐藤隆	宮城	宮城県農業	3	59.2	90	110	200

67.5 Kg級記録

順位	氏名	都道府県	学校名	学年	体重	S	J	トータル
1	森 浩之	三重	亀山	3	66.8	105	125	230
2	谷田健児	栃木	小山南	3	66.3	100	125	225
3	知念英樹	大阪	大阪工業大学	2	64.5	100	120	220
4	白石公弘	愛媛	新居浜南	3	66.2	95	125	220
5	紺野幸輝	岩手	岩谷堂	3	66.4	95	125	220
6	林 和明	北海	札幌新川	3	64.4	90	120	210
7	山本正夫	新潟	三条工業	3	64.9	95	115	210
8	遠藤孝之	山形	山添	3	66.8	95	115	210

75 Kg級記録

1	西山浩司	大阪	大阪工業大学	3	74.1	大会新 117.5	145	262.5
2	柿本智	栃木	小山	3	74.3	102.5	127.5	230
3	三浦光治	秋田	船川水産	2	72.5	95	125	220
4	澤浦彰治	群馬	利根農林	3	73.4	95	125	220
5	助川徹哉	栃木	小山園芸	2	69.7	97.5	117.5	215
6	野中弘則	長野	諫早農業	3	70.4	95	120	215
7	山口正美	島根	出雲農林	3	71.2	95	120	215
8	勝田重広	滋賀	堅田	3	72.6	95	120	215

82.5 Kg級記録

1	弟子辺芳徳	沖縄	南部工業	3	75.6	107.5	135	242.5
2	桂山幸治	三重	四日市中央工業	3	77.9	107.5	130	237.5
3	中嶋宏	栃木	小山	2	81.3	102.5	132.5	235
4	岡山忠広	島根	出雲農林	3	75.3	100	130	230
5	吉田茂	三重	亀山	2	75.1	102.5	125	227.5
6	曾根竜一	埼玉	埼玉栄	3	75.9	95	125	220
7	望月正仁	静岡	東海大学工業	3	75.1	92.5	122.5	215
8	寺本敦義	群馬	藤岡	3	75.2	97.5	117.5	215

90Kg級記録

順位	氏名	都道府県	学名	学年	体重	S	J	トータル
1	桜井剛毅	栃木	小山	3	85.4	大会新 120	142.5	大会新 262.5
2	館義浩	三重	四日市中央工業	2	87.9	112.5	137.5	250
3	足立浩	埼玉	埼玉栄	3	89.1	107.5	135	242.5
4	藤本義人	兵庫	明石南	3	88.6	110	130	240
5	織田龍次	愛知	名城大学附属	3	84.8	100	125	225
6	黒川雅司	三重	亀山	3	88.7	100	125	225
7	上野隆司	島根	出雲農林	2	83.8	95	127.5	222.5
8	作山正茨	茨城	高萩工業	3	82.6	97.5	122.5	220

100Kg級記録

1	佐々木正強	青森	五所川原工業	3	90.1	105	130	235
2	久保博	兵庫	尼崎工業	3	90.2	100	130	230
3	塩崎靖	愛媛	新居浜工業	3	90.1	102.5	125	227.5
4	富樫嘉文	山形	山添	2	94.2	95	127.5	222.5
5	佐々木浩和	島根	浜田商業	3	90.1	97.5	122.5	220
6	延田忠雄	大分	別府商業	3	96.4	95	120	215
7	高橋裕治	愛知	中京	3	95.2	95	110	205
8	菅原明秋	秋田	五城目	3	96.2	90	110	200

学 校 対 抗 得 点 表

番 号	都 道 府 県 名	学 校 名	参加 人 員	得 点 と 順 位								
				5 2 Kg級	5 6 Kg級	6 0 Kg級	6 7.5 Kg級	7 5 Kg級	8 2.5 Kg級	9 0 Kg級	得点 合計	順 位
1	北海道	夕張工業高校	4						3		3	23
2	青森	柏木農業高校	4			5				1	6	17
3	岩手	岩谷堂農林高校	4									
4	宮城	宮城県農業高校	4			3		2			5	21
5	秋田	秋田工業高校	4				1					
6	山形	山添高校	4		3		5				8	12
7	福島	福島農蚕高校	4	2					1		3	23
8	茨城	高萩工業高校	4	4	4					3	11	8
9	栃木	小山高校	4			1			9	9	26	1
10	群馬	利根農林高校	4		5	2		7			13	7
11	埼玉	埼玉栄高校	4			7		6	5	7	19	5
12	千葉	八千代松陰高校	4									
13	東京	城西高校	4		9	6					15	6
14	山梨	日川高校	4									
15	新潟	三条工業高校	4				6				6	17
16	長野	松商学園高校	2									
17	富山	富山商業高校	4									
18	石川	金沢高校	4									
19	福井	坂井農業高校	4									
20	静岡	沼津学園高校	4									
21	愛知	名城大学附属高校	4	3			4				7	14
22	三重	亀山高校	4	5			9		6	5	25	2
23	岐阜	中津高校	4			9					9	10
24	滋賀	堅田高校	4					3	2	2	7	14
25	大阪	大阪工業大学高校	4		7		7	9			23	3
26	兵庫	明石南高校	4	1	2					6	9	10
27	奈良	大淀高校	4									
28	和歌山	和歌山工業高校	4	9				1			10	9
29	鳥取	鳥取西工業高校	4									
30	島根	出雲農林高校	4		6			4	7	4	21	4
31	岡山	水島工業高校	4									
32	広島	広島工業高校	3									
33	山口	下関工業高校	4			4	2				6	17
34	徳島	徳島工業高校	4									
35	愛媛	新居浜工業高校	4									
36	福岡	東福岡高校	4									
37	長崎	諫早農業高校	4				3	5			8	12
38	熊本	宇土高校	4									
39	大分	大分工業高校	4									
40	宮崎	小林工業高校	4	7							7	14
41	沖縄	糸満高校	4		1				4		5	21
42	鹿児島	鹿児島商工高校	4	6							6	17

未来をみつめる、目

太陽エネルギーを有効に利用し、公害の問題も解決できるソーラーシステム。工場・ビルの省エネルギー対策。さらに原子力発電関連、空調ほか無塵室(クリーンルーム)の開発など大成温調工業は時代の声に対応しながら日々、新たな技術開発に取り組んでいます。

●営業種目

空気調和設備・給排水衛生設備
公害防止関連設備の設計・施工



明日の豊かな 環境をつくる

 **大成温調工業株式会社**

代表取締役社長 水 谷 大 介

本 社 〒140 東京都品川区大井1丁目47番1号 TEL 03(774)1111(代)
東北営業所 〒980 仙台市上杉1丁目6番10号 TEL 0222(66)0245 (代)

仙台北辰ビル

関 東 支 店 〒330 大宮市浅間町2丁目60番地 TEL 0486(43)1352 (代)

大阪営業所 〒530 大阪市北区与力町1番5号 TEL 06(356)1281 (代)
与力町パークビル

営業所、出張所／青森・秋田・新潟・栃木・茨城・千葉・横浜・甲府・静岡・沖縄



瞬速FFスポーツ誕生。

ゆたかなカー・ライフをおとどけする。

株式会社マツダオート東京

マツダオート東京 営業所ご案内

高田馬場営業所	☎ 208-8561代	深川営業所	☎ 641-0666代
落合営業所	☎ 953-7861代	足立営業所	☎ 884-5146代
府中営業所	☎ 0423-63-7251代	墨田営業所	☎ 612-7141代
国分寺営業所	☎ 0423-22-4355代	水元営業所	☎ 600-6041代
八王子営業所	☎ 0426-23-6281代	江北営業所	☎ 854-3161代
八王子南営業所	☎ 0426-25-9621代	葛飾営業所	☎ 692-1225代
調布営業所	☎ 0424-83-9171代	江戸川営業所	☎ 658-3181代
石神井営業所	☎ 997-4356代	一之江営業所	☎ 656-5011代
閑町営業所	☎ 920-5136代	府中マイカーランド	☎ 0423-63-7251代
東村山営業所	☎ 0423-94-8511代	立川マイカーランド	☎ 0425-45-0531代
拝島営業所	☎ 0425-53-1321代	東村山マイカーランド	☎ 0423-91-3270代
町田営業所	☎ 0427-26-3271代	三鷹マイカーランド	☎ 0422-51-0860代
稲城営業所	☎ 0423-78-1745代	井荻マイカーランド	☎ 394-6911代
青梅営業所	☎ 0428-24-2191代	竹の塚マイカーランド	☎ 883-5106代
中央営業所	☎ 531-3311代	新小岩マイカーランド	☎ 692-1015代
上野営業所	☎ 835-3041代		